

2024 年度 第 1 回日本生態学会自然保護専門委員会 議事次第

日時: 2025 年 1 月 27 日(月) 9:00-12:00

開催方法; zoom

【あいさつ】

【審議事項】

1. 2024 年度活動費支出報告及び 2025 年度活動費支出予算について

2024 年度活動費 126,832

日付	金額(円)	累計額(円)	摘要
令和 6 年 4 月 15 日	28,160	28,160	3/28 要望書提出記者会見旅費 和田直也
令和 6 年 7 月 23 日	11,880	40,040	HP レンタルサーバー費用
令和 6 年 8 月 1 日	20,680	60,720	8/5 上関要望書記者会見会場費
令和 6 年 8 月 7 日	18,180	78,900	8/5 上関要望書提出記者会見旅費 関島恒夫
令和 6 年 8 月 19 日	47,932	126,832	8/5 上関要望書環境省申し入れと記者会見旅費 安溪遊地

2025 年度活動費予算(案)

アフターケア活動費用等	30,000 円
記者会見交通費・会議場レンタル費用等	120,000 円
合計	150,000 円

※支払い請求が生じた場合,速やかに三役までご連絡ください(会計年度は1月~12月です)
旅費規程については,生態学会 HP の旅費規則をご覧ください

2. 役員の体制について

3. その他

・承認手続きに関して

【報告事項】

1. 自然保護専門委員会の活動報告(2024 年)

- 3/28 「ため池防災特措法に基づく防災事業における堤体植生配慮の要望書」の提出・記者会見(農林水産省・長野県庁) 日本農業新聞・信濃毎日新聞等で報道
- 4/24 自然保護専門委員会メーリングリストの立ち上げ
- 6/4 「上関中間貯蔵施設に関わる要望書」について理事会との意見交換
- 6/20 「上関中間貯蔵施設に関わる要望書」が理事会で了承
- 6/29 日本環境会議から提出された「知床携帯基地局および太陽光パネル設置工事計画に係る意見書」に自然保護専門委員会として賛同するか否かをメールにて審議(委員32名のうち、承認 30 名、回答なし2名)
- 7/4 「(仮称)新潟関川風力発電事業計画の中止あるいは抜本的な見直しを求める要望書」について、自然保護専門委員会でメール審議した結果、委員 32 名のうち、承認 20 名、保留 3 名、回答なし 9 名となった。理事会審議の結果(資料1)、要望書は本委員会ではなく、中部地区会からの提出に変更
- 7/6 「知床携帯基地局および太陽光パネル設置工事計画に係る意見書」に対する日本生態学会自然保護専門委員会として賛同
- 7/23 「上関中間貯蔵施設に関わる要望書」を、事業者である中部電力と上関町に、7 月 30 日に山口県に、8 月 5 日に環境省(経産省と文化庁には事前に送付)に提出した。環境省に提出後、同日に安溪委員、大久保、関島委員長の 3 名が記者会見を開催
- 8/5 「知床携帯基地局および太陽光パネル設置工事計画に係る意見書」に関する記者会見を開催し、自然保護専門委員会からは大久保が出席(資料2)
- 11/8 ESJ72 におけるフォーラム開催の案内についての報告

【委員会名:自然保護専門委員会】

・フォーラムタイトル:

自然保護専門委員会の一層の活性化に向けて ~これまでの活動を振り返り、将来を描く~

・企画者:

関島恒夫(新潟大・農)、和田直也(富山大・学術研究部理学系)、大久保奈弥(東経大・全学共通教育センター)

・フォーラムの概要

日本生態学会自然保護専門委員会は、各地区会から選出された委員と専門別委員から構成される委員会組織である。1960 年に発足して以来、自然保護行政機関や開発事業者に対して意見書・要望書を提出することにより、日本の環境保全に貢献してきた。今日、ローカルからグローバルまで、様々なスケールにおける自然資源の持続的利用が求められる中、開発による自然環境に及ぼす影響も複雑化しており、開発を進める事業者に対して、学会として意見書や要望書を提出することについてもハードルが高くなりつつある。そのような状況の中で、当委員会では、行政機関や開発事業者に対して、生物多様性保全の観点から、意見書や要望書を提出することは今後も重要であると考えている。しかし一方で、当委員会の活動や意義が、学会員に広く認知されていないことも考えら

れ、今一度、自然保護専門委員会とはどのような委員会組織なのかを、学会員に広く知ってもらう必要性を感じている。本フォーラムでは、これまでの委員会活動を振り返った上で、現在の委員会活動において何が課題となっているのか、そして、今後、どのような方向を目指して歩むべきなのかについて、会員との意見交換を通して進むべき将来を描く。

1) 趣旨説明

2) 65年にわたる自然保護専門委員会の活動の振り返り 和田直也

3) 今後の委員会活動をより活発にするための具体的提案

3-1) アセス手続きの流れを考慮した要望書の提出 関島恒夫

3-2) 要望書で「環境影響の補償・改善と自然創出・再興」に言及する必要性 竹門康弘

3-3) 専門委員の交代や事務作業の効率化にあたった「動き方」のマニュアル化 大久保奈弥

4) 総合討論 ～自然保護専門委員会が目指す将来を語る～

2. 苫東厚真風力発電事業に関する要望書(案)

今年度第4回理事会(2025年2月8日開催)にて審議予定(1月25日に要望書を生態学会事務局に提出)、第3回理事会(2024年12月21日)に本要望書の再提出について検討依頼

3. 作業部会・アフターケア委員会報告

- ・再エネ部会(資料3)
- ・外来種検討作業部会(資料4)
- ・尖閣諸島魚釣島アフターケア委員会
- ・淀川問題検討委員会
- ・上関要望書アフターケア委員会
- ・石狩海岸風車建設事業計画の中止を求める要望書アフターケア委員会
- ・中池見湿地要望書アフターケア委員会
- ・濃飛横断自動車道路計画要望書アフターケア委員会
- ・辺野古・大浦湾の埋め立て中止を求める要望書アフターケア委員会

4. 各地区会報告

- ・北海道地区会
- ・東北地区会
- ・関東地区会
- ・中部地区会

・近畿地区会

近畿地区選出委員 中井克樹・古賀庸憲

1. 要望書の提出

2025 年(令和 7 年)1 月 14 日、「滋賀県立高等専門学校予定地の自然環境保全を求める要望書」を滋賀県知事宛てに提出しました。(別紙)

2. 要望案件のアフターケア

①京都府亀岡市のアユモドキへの対応(京都府京都スタジアム建設)

2013 年以来、専用球技場(京都スタジアム)建設に関連して、日本生態学会または同近畿地区会からアユモドキ(種の保存法国内希少野生動植物種、国の天然記念物)の生息地の保全について要望。2020 年に球技場の竣工後も、アユモドキ個体群と生息環境、社会状況の経緯を見守っており、スタジアムの建設位置の変更と各種対策を経て、現状でアユモドキの個体群は比較的良好な状態となっている。しかし、アユモドキの生息基盤が脆弱であることには変わりなく、生息地の重要な一部が改善のためとはいえ改変されることとなるため、今後とも動向に注目していく。

②和歌山県御坊市の日高川河口導流堤改修工事への対応

日高川河口の導流堤改修工事は、自然保護専門委員会委員らの助言を受けながら実施されてきているが、8 月に現地確認したところでは、工事用作業道路の橋脚が残されているなど、事業の進捗は遅れ気味の模様。現時点では対応が不適切な方向に向かっているわけではなく、今後の事業の進展を注視し続ける。

・中国四国地区会

・九州地区会

a) 2023 年 7 月 21 日に自然保護専門委員会から矢原先生と私が現地視察に行った鹿児島大学高隈演習林の垂水風力発電事業計画地のその後について、委員会で報告できていなかったののでここで報告します。現地視察では興味深い植物が発見され、それらの同定に関する高精度系統解析の結果が出るのを待って矢原先生が報告書をまとめ、2024 年 6 月末に高隈演習林(井倉先生)に提出されました。ただ井倉先生によると、本件については 2023 年 12 月に鹿児島大学長から事業者のユーラスエナジー社に宛て正式な断りの文書を提出し、そこで話が終了したそうです。鹿児島大学内の各専門分野の先生が集まった WG で影響等の指摘や賛否のとりまとめを行い、それを大学側に報告した結果、このような対応になったようです。なお、本件の一連のことについて、鹿児島大学としての公表は行っていないとのことでした。(そのような状況ですので、自然保護専門委員会としても公表は控えたほうがよいかもしれません)。また、矢原先生が提出された報告書については、鹿大 WG のメンバーで共有するとのことでした。

b) 曽根干潟関連の 7 学会要望書の案

5. 各担当委員報告

6. その他

資料I 理事会からのコメント

1) 日本環境会議の声明に対する賛同について

規定がない中、意見交換を行い、自然保護専門委員会としての賛同については、了解されました。
賛同の方法として、自然保護専門委員会のホームページで、賛同した旨を発信する、ことを提案しましたが、認められました。また、記者会見への参加も承認されました。

日浦理事よりコメントがありました。

WWFも賛同のコメントを出しているが、そこではステークホルダー間の対話の重要性について指摘している。日本環境会議の意見声明にはこの点の配慮が欠けているようにも思う。「対話の重要性」についても検討してほしい。

→ 記者会見で発言の機会がある場合は、その点についても配慮して発言したいと思う。

(Web ページでの賛同の表明の際にも「対話の重要性」を検討してみても良いかもしれません)

2) 新潟関川風力発電所計画に対する要望書案について

差し戻されました。前回の上関の要望書と同様に、臨時でのメール審議を提案されました。差し戻された理由として、1) 理事が確認する時間が限られており早急な提案だったこと、2) 9名(最新の情報では7名)の委員が回答していないこと、この2点です。要望書の内容がやや強く感じるとの意見もありました。

経緯や趣旨は理解できるので、臨時でのメール審議をして文言をよく読んで検討してはどうかと提案されましたが、それであれば、私から「中部地区会からの要望書として提出し、計画が進んだ段階で、懸念が払拭されていない場合には再度自然保護専門委員会としての要望書として提出を提案する」、という回答をしました。会長からは了解が得られました。

資料2

世界自然遺産・知床における携帯基地局等の建設問題にかかる共同記者会見

1. 趣旨

世界自然遺産・知床半島での携帯基地局等の設置計画については、北海道内では報道も多く、この間、一定程度知られるようになりました。この計画の問題点については、北海道自然保護協会、日本自然保護協会、日本環境会議などが、建設計画の見直しを求める意見書を公表しています。しかし、北海道以外の地域では、この問題はあまり知られていません。

そこで、東京で、報道機関向けの記者会見を行い、報道関係の方々や多くの市民の方々にこの問題を知っていただくことを目的とします。合わせて、行政機関、携帯電話事業者各社のみなさんにも、環境保護団体や学会等が、本計画についてどのような懸念をもっているかをお伝えできればと思います。

この記者会見には、環境保護団体、知床半島をフィールドとする鳥類生態学の研究者、関係学会、環境法に携わる弁護士、アウトドア業界といった多様な主体が参加し、それぞれの立場からこの問題についての意見表明を行います。

2. 日時・場所（ハイブリッド方式）

・対面

2024年8月9日（金）15時～16時（14:30 設営開始、14:45 開場）

日本プレスセンタービル 9F 会見場（アクセス <https://www.presscenter.co.jp/>）

・オンライン Zoom ミーティング

・後日配信：質疑の前までは、zoom 録画をし、後日、インターネットで配信する予定です

3. 記者会見のスケジュール

司会進行：島村健（JEC 理事・京都大学）

スピーカー	内容	時間割 60 分
概要説明 司会進行から	趣旨説明 各団体、change.org、斜里町議会から意見書が出ていることを紹介。	5 分
北海道自然保護協会会長・在田一則 日本自然保護協会保護・教育部長・大野正人	世界自然遺産・知床における携帯基地局建設問題 （ユネスコ世界遺産センターへの通知書、意見書、これまでの経緯について）	15 分
白木彩子 東京農業大学生物産業学部／環境省オジロワ	知床岬におけるオジロワシ等希少種の保全の必要性	10 分

シ・オオワシ保護増殖検 討会委員(オンライン)		
各団体からの意見表明 (各団体 4 分～5 分)	①生態学会自然保護専門委員会／東京経済大学 大久保奈弥 ②日本環境会議理事長／一橋大学名誉教授 寺西俊一理事長 ③日本環境法律家連盟・弁護士 島昭宏 ④日本野鳥の会 自然保護室長 田尻浩伸 ⑤日本鳥学会 鳥類保護委員会 副委員長 浦達也(オンライン) ⑥コンサベーション・アライアンス・ジャパン 代表理事 三浦務	20 分
	午来・元斜里町長からのメッセージを紹介	
質疑		10 分

資料3 再エネ部会

2024 年度 第 1 回 再エネ作業部会 議事録

日時:2024 年 5 月 13 日(月) 10:00～

開催方法;オンライン

○報告

- ・自然保護専門委員会ホームページにおける作業部会紹介ページの設置について
(自然保護専門委員会執行部)
本作業部会の紹介ページを同ホームページに設置したことが報告された。

- ・「世界遺産と太陽光発電」に関する会合の報告(吉田正人さん)

2024 年 3 月 5～6 日にベルギーで開催された「世界遺産と太陽光発電ガイドライン検討のための専門家会合」において、「ユネスコによる再生可能エネルギーと世界遺産保護のガイドラインラインに関する報告」という演題で発表された資料を報告いただいた。

○議事

- ・新潟関川風力発電事業に対する要望書について(中部地区会)

和田委員および若松委員より、当該事業の概要および本事業が抱える自然環境に対する影響を紹介いただき、再エネ部会として事業影響を共有するとともに、自然保護専門委員会から要望書を提出することが提案・了承された。

- ・宗谷管内風力発電事業に対する要望書について(北海道地区会)

露崎委員より当該事業の概要および本事業が抱える自然環境に対する影響を紹介いただき、北海道地区会から要望書を提出することが提案・了承された。

- ・宗谷丘陵南風力発電事業に対する対応について

本事業に対しては北海道地区会から要望書が提出されているが、事業者のその後の対応について、河口委員より説明があった。

○その他

特になし

2024年度 第 2 回 再エネ部会 議事録

日時:2024 年 8 月 1 日(木) 18:00～

開催方法;オンライン

議事

1) 北大中川演習林に近接した風力事業に対する意見交換について

北大中川演習林の揚妻氏から、同演習林に近接したところに予定されている風力事業に関して事業概要を紹介いただくとともに、併せて同演習林の有する自然環境について紹介いただき、同演習林が有する自然環境に対し、風力事業が与える影響について意見交換した。併せて、事業の進捗に併せて、再エネ部会が協力していくこと、場合によっては演習林と事業者の協議に再エネ部会メンバーも参加するなどの意見交換がなされた。

2024 年度 第 3 回 再エネ部会 議事録

日時:2024 年 11 月 25 日(月) 13:00~15:30

開催方法:オンライン

議事

1) (仮称) 苫東厚真風力発電事業に係る要望書の再提出について(本事業アフターケア委員会)

当該事業のアセス手続きが準備書審査を迎えるにあたり、本事業に対し、これまで地区会および学会から提出された要望書が事業計画に全く反映されていないことを受け、改めて、アフターケア委員会から同事業の抱える問題について紹介いただき、学会として要望書を提出することの必要性が検討され、了承された。

2024 年度 第 4 回 再エネ部会 議事録

日時:2024 年 12 月 14 日(土) 16:00~

開催方法:オンライン

議事

1) (仮称) 苫東厚真風力発電事業に係る要望書の再提出について(本事業アフターケア委員会)

再エネ部会で検討した結果、当該事業に関して、生態学会として要望書を再提出する方向で了承された。要望書案は、当該事業のアフターケア委員会が担当する。

<アフターケア委員会委員>

- ・露崎史朗(世話人) 植物 自然保護専門委員・北海道大学大学院地球環境科学研究院
- ・先崎理之(委員長) 湿地性鳥類 北海道大学大学院地球環境科学研究院
- ・大原昌宏 昆虫 北海道大学総合博物館
- ・白木彩子 猛禽類 東京農業大学生物産業学部
- ・松島肇 景観 北海道大学大学院農学研究院

2) (仮称) 嶺北香美ウインドファーム事業への意見書(案)(中四国地区会)

当該事業について、中国四国地区会の比嘉委員より事業概要および想定される環境影響を紹介いただき、再エネ部会と情報共有を図るとともに、地区会として意見書を提出、続いて要望書を提出することが確認された。

資料4 外来種対策作業部会

自然保護専門委員会外来種対策作業部会報告 2025

【日時】2025 年 1 月 22 日 17 時～19 時

【場所】オンライン (ZOOM)

【参加者】中井克樹、片岡友美、木村妙子、西川潮、小池文人、佐藤重穂、増澤武弘、常田邦彦、安田泰輔、森本信生、橋本琢磨、天野一葉、池田透、戸田光彦、亘悠哉、坂本洋典、五箇公一 (17 名)

【議題】

- 1) 生態学会・侵略的外来種ワースト 100 リストの見直しの進捗報告
- 2) 環境省「外来種被害防止行動計画の見直し」について
- 3) 国内外における外来種防除事業の進捗について
- 4) その他

【報告事項】

1. 生態学会・侵略的外来種ワースト 100 リストの見直しの進捗報告

- ・旧リストの見直し、更新作業を継続中 (旧リストでカテゴリーがなかった分類群の再調査・整理)
- ・2 月中に候補リスト整理完了し、3 月中にオンライン部会で決定→国立環境研侵入生物データベースに掲載予定

2. 環境省「外来種被害防止行動計画の見直し」について

- ・現在、計画の最終案を修正中
- ・3 月 7 日に最終の検討会開催。その前にパブコメが予定されているので、生態学会関係各位からの意見投稿も望む

3. 国内外における外来種防除事業の進捗について

- ・環境省が市町村自治体宛に特定外来生物分布状況に関するアンケート調査を実施。結果は国立環境研究所・侵入生物データベースに順次掲載、公開中。
- ・新たな研究予算事業として内閣府 BRIDGE による外来植物防除技術開発プロジェクトが 2024 年度から開始。農研機構と国立環境研の共同研究。国立環境研では、ナガエツルノゲイトウなどの侵略的外来植物に対する薬剤防除の環境基準設定のための調査研究中。
- ・奄美大島マングース根絶確認、宣言の報告。沖縄島についても自然保護地域からの排除が順調に進行中。2024 年は米軍基地立ち入りの許可を取得できず、残留個体の増加を許した。2025 年は確実に防除を進めたい。
- ・沖縄やんばるの森林エリアにて、ニホンジカ (オス) 1 頭確認のニュース。動物公園計画があり、飼育個体が逸出した可能性。県の対応が鈍くて問題。
- ・キョンが千葉から茨城県へ侵入

- ・サンジャクが四国で急増、対策が遅れている。
- ・小笠原兄島のグリーンアノールは分布拡大止まらず、完全排除の方針揺らいている。ゾーニング柵検討中
- ・外来アリ対策については新規ベイト剤開発など、技術開発推進中。全体として防除はプラスの方向に進行している。
- ・沖縄島における国内外来種ヤエヤマボタルの侵入対策に苦慮。
- ・ニホンイシガメによる遺伝的侵食の問題。今後法的対応が課題。
- ・アメリカザリガニ防除のパイロット事業は未完のまま終了。奄美大島でも防除推進。
- ・シロアゴガエルが徳之島に侵入。
- ・ベントス学会で全国の海産外来生物の現状調査、今年中に報告予定。
- ・農水省農業資材審議会・環境省農薬小委員会共同で天敵農薬生態リスク評価部会を設置、五箇が座長で、昨年より製剤評価開始。

4. その他

- ・2024 年度より、部会長を五箇から亘氏に変更提案、全員一致で承認
- ・若手研究員の参入推進

(文責:五箇公一)